

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 草加市カヌー協会

26A-45

代表者：理事長 大原 宏行

URL :

1. 活動が必要とされた状況

平成 26 年、草加松原が文化庁の「おくのほそ道の風景地」として名勝に指定されたが、側を流れる綾瀬川が、悪臭、不法投棄ゴミで汚れていたため、カヌーで浮遊ゴミの回収活動を始めた。名勝草加松原の側を流れる綾瀬川が、不法投棄ゴミであふれて大変不名誉であった。市民と行政が連携して、川の再生を図ることが重要な課題であった。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成 26 年 12 月に浮遊ゴミの回収活動を開始し、毎週水、土、日、祝日の午前 8 時 30 分から約 3 時間、河川の美化活動を続けて 9 年目である。

令和 5 年は、活動回数 143 回、参加人数の合計は 935 名、ゴミの回収量は 595 袋であった。主なごみは、ペットボトル、空き缶、空き瓶、発泡スチロール、コンビニ弁当殻、家庭ごみなどであるが、時には、自転車や布団、冷蔵庫などの大型のゴミもある。環境省の春と秋の「海ゴミゼロウイーク」にも協力している。

夏休みカヌー教室では、SDGs チャレンジと称し、近隣の中学、高校にも働きかけ、カヌーでのゴミ拾いボランティアの体験を同時に行い、SDGs の⑪住み続けられるまちづくりと⑭海の豊かさを守ることに ついて、体験しながら考えてもらうことができた。



3. 活動の成果

平成 26 年当初は会員 2 名で始めたが、令和 5 年 12 月現在の会員数(賛助会員卵を含む)は 154 名。9 年間で、活動回数は 1,129 回、参加総人数は 11,452 名、ゴミの回収総量は 6,583 袋。ゴミ袋を積み上げると 3,589m を超え、富士山(3,776m)に迫る量である(45ℓビニール袋 1 袋分=50cm に換算)。今年度は、近隣の中学生、高校生、特別支援学校の教員ともつながりを広げることができ、次年度に向けて新たな歩みを進める足掛かりを構築することができた。また、広域連携している足立区、越谷市、春日部市の団体の活動への協力も率先して行うことができた。夏休みカヌー教室SDGs ⑪⑭チャレンジ(19 名)、特別支援学校の教員と会員対象のライフジャケット装着体験・カヌー沈脱体験(8 名)を開催することができた。

4. 今後に残された課題

私たちの活動は、美化活動(ゴミ拾い)とカヌースポーツとの異色のコラボが生んだ活動である。止揚(アウフヘーベン)の考え方をもち、一つ一つの課題に丁寧に向き合いながら解決の糸口を探りたい。今後の課題は、広がる活動、つながる活動を作ることである。水辺を活かした安全安心で潤いのある豊かな街づくりを、市民の立場から、教育機関、行政機関に積極的に働きかけ、連携して取り組んでいきたいと考えている。